

スリ・ランカ国
コンピュータ・センター
巡回指導調査団報告書

平成元年5月

国際協力事業団
社会開発協力部

LIBRARY

社協一
JR
91-014

国際協力事業団

22320

JICA LIBRARY



1090153(6)

22320

序 文

スリ・ランカ国政府は、開放経済体制のもとで、同国を西アジアにおける金融・商業の中心地とするために必要な人材の育成に力を入れており、中でもコンピュータのソフトウェア技術者の育成を強力に推進するための訓練センターの設置について、我が国に技術協力を要請してきた。

本要請を受けて我が国は、昭和61年2月、要請内容の確認とプロジェクトとして協力可能な規模、範囲、期間等を策定する目的で、事前調査団をスリ・ランカに派遣した。その結果、技術的観点からより詳細な調査を実施する必要性が生じたため、昭和61年10月25日から11月13日までの20日間、長期調査専門家チームをスリ・ランカに派遣し、コンピュータ技術者に対する社会的ニーズ、技術水準、プロジェクトの目的、訓練目標、訓練時間、シラバス、カリキュラム、訓練用機材、センターの組織、予算等につき必要な調査を実施した。翌年2月24日から3月4日まで実施協議調査団を派遣し、本件に関する協力の内容、規模、実施体制、「日」「ス」双方のとるべき措置、専門家の特権・免除等につきスリ・ランカ国関係機関と協議を行い、討議議事録（R/D）に署名し、3カ年にわたる技術協力を開始することとなった。

これに基づき、昭和62年度から専門家派遣、研修員受入れ、及び機材供与を行い、平成元年5月の開講に向けて準備を進めている現在、プロジェクト運営状況及び技術移転状況、プロジェクトサイト建設工事の進捗状況等を把握するとともに、今後のプロジェクトの計画につき打合せを行うことを目的として、国際協力事業団社会開発協力部・小泉純作次長を団長とする巡回指導調査団を、平成元年4月8日から4月29日までスリ・ランカ国へ派遣した。

本報告書は、上記調査団が行った協議の内容と結果を中心にとりまとめたものである。

最後に、調査団員諸氏のご尽力並びに外務省、通産省、郵政省、在スリ・ランカ日本国大使館及びスリ・ランカ国の関係各位に対し深甚の謝意を表するとともに、関係各位の今後の一層のご支援をお願いする次第である。

平成元年5月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長 西田 幸男

図-1 スリ・ランカの地図

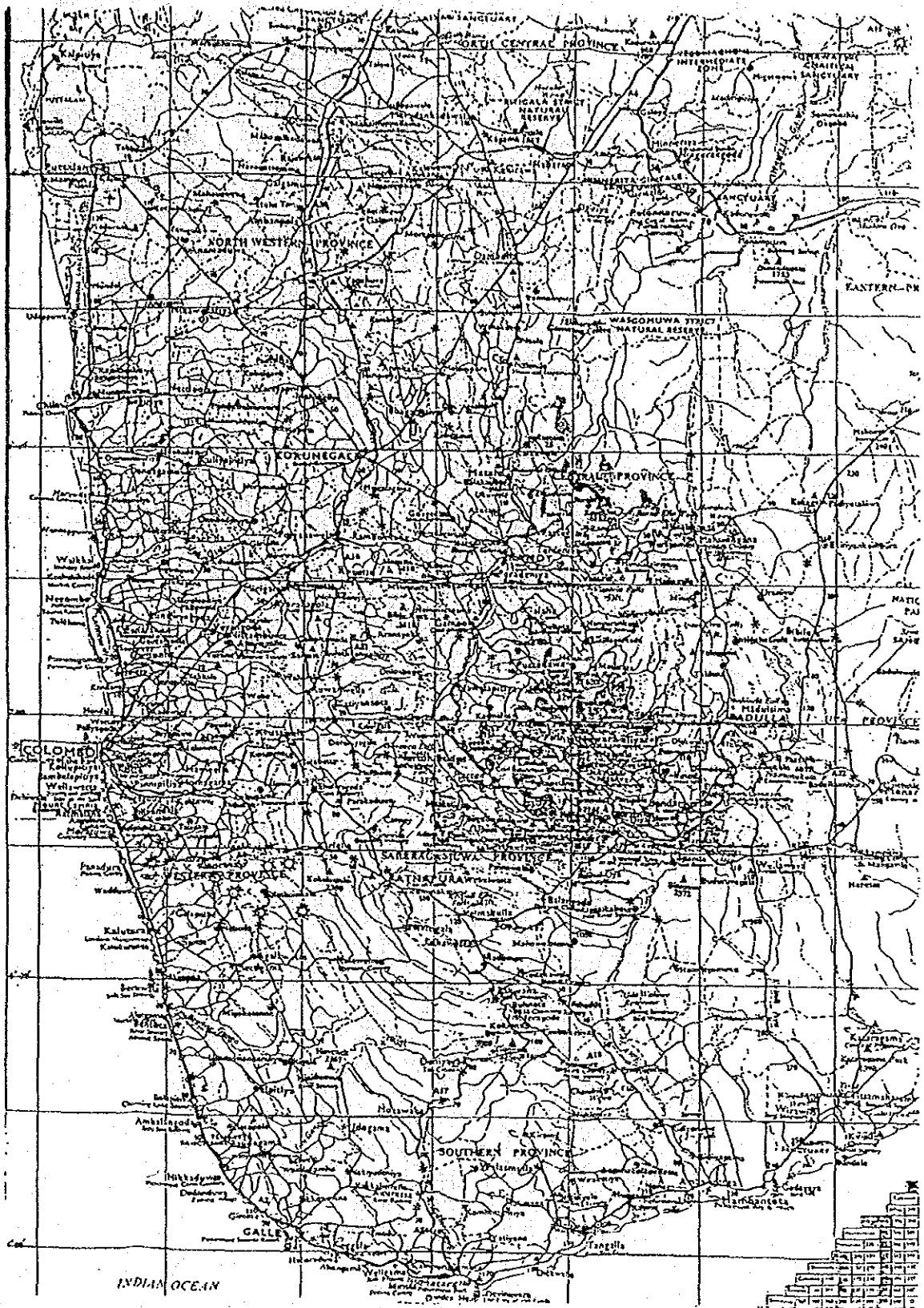
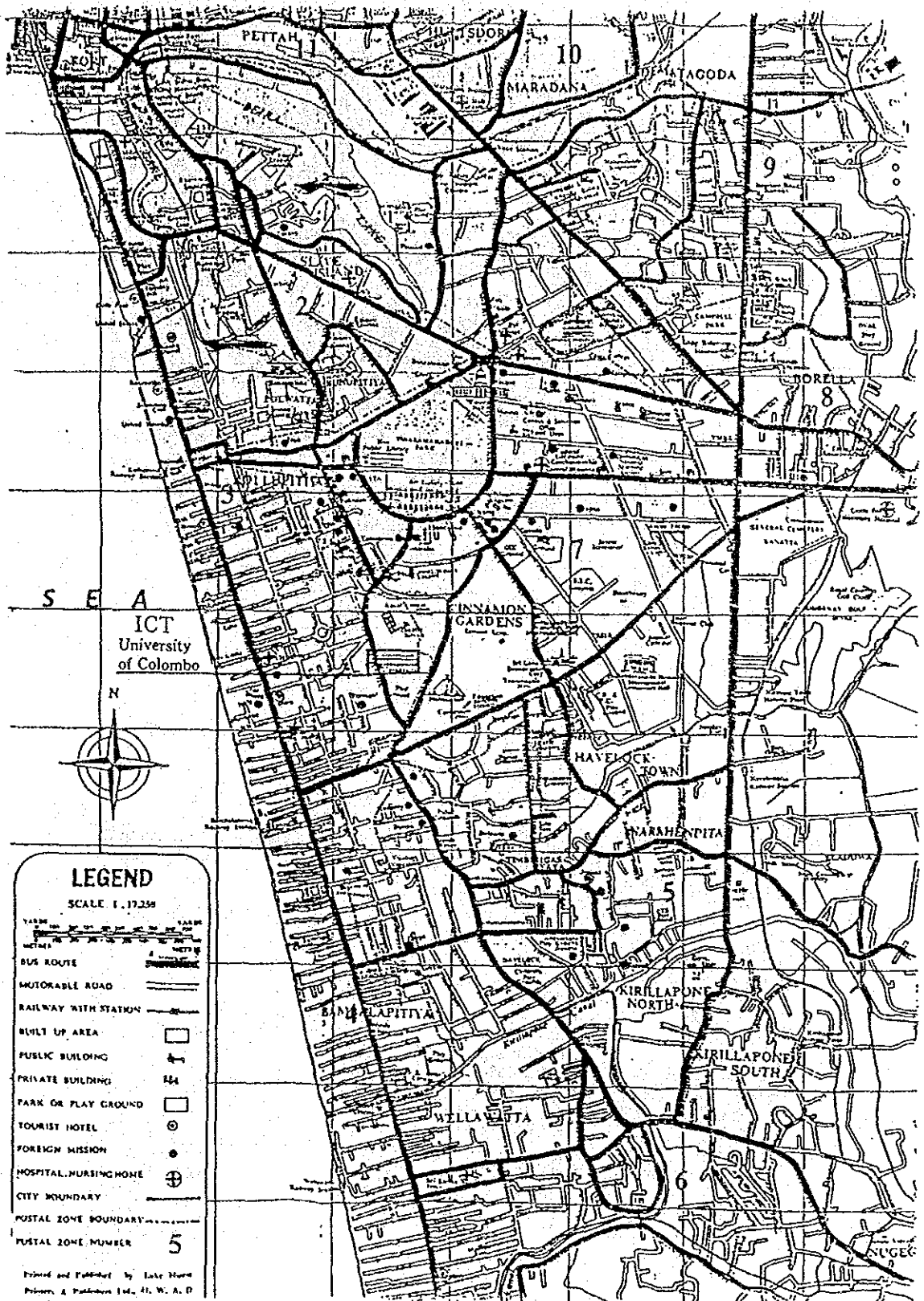


図-2 ICT (コロンボ大学) の位置



《調査団メンバー》



島添団員

石岡団員

小泉団長

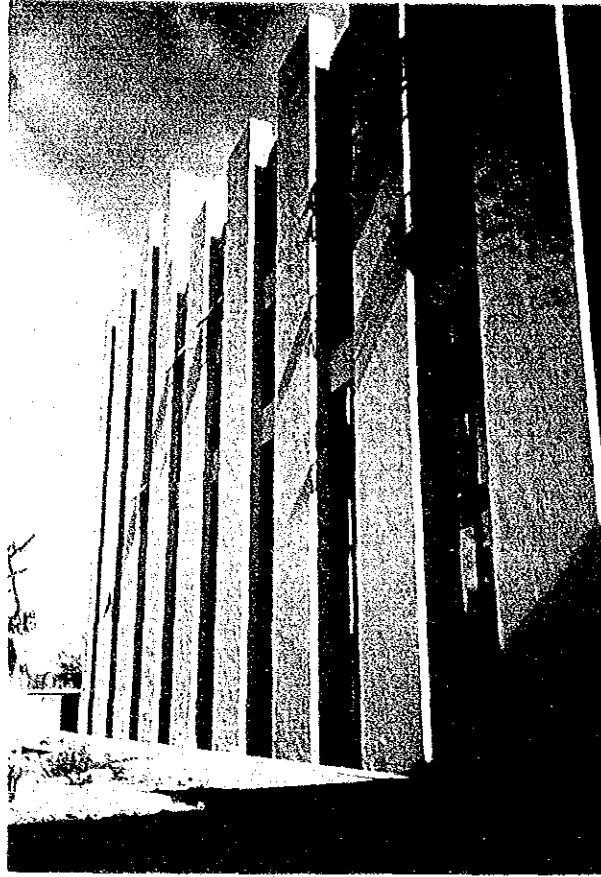
小林団員

《ミニッツ署名》



Pieris 副学長

小泉団長



《高等教育・科学技術大臣表敬》



島添団員 小泉団長

Hameed 大臣

目 次

序 文
地 図
写 真

1. 巡回指導調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2. 要 約	5
3. プロジェクトの進捗状況	9
3-1 訓練コース開講時期	9
3-2 訓練生の募集状況	9
3-3 カウンターパート(C/P)への技術移転状況	10
3-4 教材整備状況	13
4. 日本側技術協力実績及び今後の計画	17
4-1 日本側投入実績	17
4-1-1 専門家派遣	17
4-1-2 研修員受入れ	18
4-1-3 機材供与	20
4-1-4 ローカルコスト負担	20
4-2 日本側投入計画	23
4-2-1 専門家派遣	23
4-2-2 研修員受入れ	23
4-2-3 機材供与	23
4-2-4 ローカルコスト負担	23

5. プロジェクト実施体制	24
5-1 組織	24
5-2 要員・C/P 配置状況	24
5-3 予算	28
5-4 機材の維持管理状況	30
5-5 建物・施設工事竣工状況	34
6. 資料（訓練生の氏名、所属先等）	38

1. 巡回指導調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

- (1) 1983年初頭、大統領の直属審議機関である Computer and Information Technology Council (CINTEC) の審議結果を踏まえてスリ・ランカ国政府は、スリ・ランカのコンピュータに関する基本政策を公表し、官民のコンピュータの導入を積極的に支援する政策を打ち出し、その一環として汎用コンピュータ用ソフトウェア技術者の養成を目的として、コロンボ大学内にコンピュータ・センターの設置を計画し、1983年9月、我が国に対して協力を要請してきた。
- (2) 我が国は本要請に基づき、1984年4月、予備調査団を派遣し、要請の内容、協力規模等に関し必要な調査を行い、「ス」側との協議を実施した。
- (3) 「ス」側は1985年6月、予備調査団との協議を基に、要請内容をより詳細に記述した改訂プロポーザルを作成し提出してきた。
- (4) センター設立の目的、訓練の目標、ソフトウェア技術者に対するニーズ、センターの組織、カウンターパート(C/P)の配置、応募者、卒業生の就職先、予算、システムのメンテナンス等について必要な調査を実施するとともに、プロジェクトとしての協力可能な規模、範囲、期間等を策定する目的で、1986年2月、事前調査団を派遣した。
- (5) 事前調査に引き続き、1986年10月25日から20日間、長期調査員チームを派遣し、社会的ニーズ、訓練の目標、訓練カリキュラム、コースの期間、生徒数、機器構成、フロアレイアウト等の詳細につき調査を実施した。
- (6) 上記調査結果から協力の妥当性が確認されたため、1987年2月24日から3月4日まで実施協議調査団を派遣し、協力内容、規模、実施体制、「日」「ス」双方のとりべき措置、専門家の特権・免除等につきスリ・ランカ国関係機関と協議を行い、討議議事録に署名し、昭和62年4月1日から3カ年にわたる技術協力を開始することとなった。
- (7) 技術協力開始後約2年経過し、長期専門家を8名派遣し、C/P受入れ、機材供与等が行われ、昭和63年7月の開講に向け準備が進められていたが、スリ・ランカ国における情勢の悪化等、緒般の事情により、数度の開講延期を繰り返している現在、C/Pへの技術移転状況、コーステキスト準備状況等を把握し、今後のプロジェクト運営に係る諸問題につき「ス」側関係機関及び日本人専門家と計画打合せを行い、指導・助言を行うことを目的として本調査団が派遣されたものである。

1-2 調査団の構成

氏名	担当	所属
小泉 純作	総括	国際協力事業団社会開発協力部次長
小林 正彦	情報処理	通商産業省機械情報産業局 情報処理システム開発課課長補佐
畠添 隆幸	データ通信	郵政省通信政策局国際協力課係長
石岡 秀敏	業務調整	国際協力事業団社会開発協力部海外センター課

1-3 調査日程

日順	月日	行程	調査内容
1	4月8日	成田→バンコク(TG641)	移動
2	9日	バンコク→コロンボ(TG307) シンガポール→コロンボ(SQ)	移動
3	10日	コロンボ	移動 9:00~10:00 JICAスリ・ランカ事務所打合せ 10:30~11:00 対外援助局表敬 11:00~12:00 コロンボ大学副学長表敬 12:00~13:30 ICT所長主催昼食会 14:00~15:00 日本大使館表敬 15:30~17:00 ICT視察、専門家打合せ 19:00~21:00 ICT専門家主催夕食会
4	11日		9:30~17:00 ICT C/P打合せ
5	12日		9:30~12:00 ICT専門家打合せ 事務所長主催昼食会 13:30~17:00 ICT専門家打合せ 及びミニッツ原稿作成
6	13日		ICT専門家打合せ及びミニッツ原稿作成
7	14日	スリ・ランカ→シンガポール(SQ401)	9:00~17:00 報告書作成及び資料整理
8	15日		小林団員帰国
9	16日		
10	17日		10:00~12:00 ジョイントコミッティ、ミニッツ署名 12:00~13:00 高等教育省大臣表敬
11	18日		9:00~10:00 事務所報告 10:00~11:00 大使館報告
12	19日	スリ・ランカ→シンガポール(SQ401) シンガポール→成田(JL)	小泉団長、畠添、石岡両団員帰国

1-4 主要面談者

(1) 高等教育省

Hon. A. C. S. Hameed Minister, Higher Education, Science and Technology

Mr. A. R. M. Jayawardena Secretary, Ministry of Higher Education,
Science and Technology

(2) 対外援助局

Mr. S. Weerapana Assist. Director, Ministry of Finance and
Planning

(3) コロンボ大学

Prof. G. L. Pieris Vice-Chancellor, University of Colombo

Dr. H. D. Gunawardhana Actg. Dean, Science, "

Dr. E. K. Seneviratne Head, Department of Statistics and Computer
Science, University of Colombo

(4) ICT

Prof. V. K. Samoranayake Director, ICT

Mr. V. L. Shilva D. P. M, ICT

Mr. M. J. P. U. Samantilake, B. Sc. C/P, ICT(Eng.)

Mr. Keerthi S. G. Hoonetilake, B. Sc. "

Mr. S. T. Nandasara, B. Dev. C/P, ICT

Mr. A. P. S. R. Somasiri, B. Sc. "

Mr. L. Patric Jayasinghe, B. Sc. "

Mr. S. A. U. Gunasekera, B. Sc. "

Mr. A. N. Ranasinghe, B. Sc. "

Mr. M. J. N. Peiris, B. Sc. "

Mr. K. W. Weerawarna, B. Sc. "

Mr. S. J. Paheerathan, B. Sc. "

Miss H. N. A. Jayatilake, B. Sc. "

Miss K. P. D. J. S. Karunanayake, B. Sc. "

Mr. A. Weerasinghe, B. Sc. "

Mr. A. P. Mdurapperuma, B. Sc. "

(5) 日本側関係者

伊藤 哲朗	在スリ・ランカ日本国臨時代理大使
甘利 敏一	日本国大使館二等書記官
神崎 義雄	日本国大使館三等書記官
安木 秀夫	JICAスリ・ランカ事務所長
木村 精一	JICAスリ・ランカ事務所員
新納 宏	JICAスリ・ランカ事務所員
高木 量	チームリーダー、ICT
柴田 司寿男	アシスタントチームリーダー、ICT
田中 和彦	業務調整、ICT
岩原 勝治	専門家、ICT
長田 賢治	”
篠田 信幸	”
高橋 真一	”
新関 良夫	”

2. 要 約

2-1 コース開講状況

当初1988年7月の予定であった開講時期は、大学の閉鎖等の事情より幾度かの延期を繰り返してきたが、本調査時におけるコロボ大学、対外援助局及びICTの関係者との面談において、89年5月もしくは6月に、また、高等教育大臣表敬では、5月に入学再開を予定しているとの情報に接した。このためICTにおいても、6月コース開講に向けて現在準備中である。

2-2 長期専門家任期延長

コースの開講及び、C/Pへの技術移転状況、教材の作成状況等を勘案し、大学関係者、C/P及び専門家と協議・打合せしたところ、コースが89年6月までに開講できなかった場合においても、下記事由のため、専門家のアドバイスが必要であるとの強い要望を受けた。このため現在の専門家8名の任期を90年3月（R/D終了時）まで延長することにつき、調査団の帰国後、関係各省とも協議のうえ、6月末までには結論を出したいとして、先方にこの旨伝えた。

- 1) 89年1月のシラバス修正に伴う教材の修正及び完成済み教材の改訂見直し。
- 2) C/Pの技術レベルは、教材作成及び模擬講義等により、ある程度まで（一通りの講義、演習に指導に必要なレベル）になっているが、C/Pに未だ実務経験がないので、現実に訓練が始まってから、どのような問題が生じるのか等の不安が強く残っており、日本人専門家の指導による実務訓練が必要である。

2-3 89年度日本側投入計画

- 1) 専門家派遣： 短期専門家は、特別講義2名+機材据付け3名（派遣時期については特別コース開講後スケジュールを調整する）。
89年度機材を本邦調達とした場合は、上記+機材据付け4名。
- 2) C/P受入れ：3名。NECのソフトウェアコース（89年8月～9月）受入れ予定。
- 3) 機材供与： 約2,500万円、オフコン一式、現地調達の方針で、製作期間、コスト、アフターサービス等につきプロジェクトにて検討のうえ、5月上旬には現地調達するか否かについて結論を出すこととした。
- 4) ローカルコスト負担：現地語教科書作成費1,000千円予定。

THE MINUTES OF THE MEETING
ON
THE INSTITUTE OF COMPUTER TECHNOLOGY (ICT)

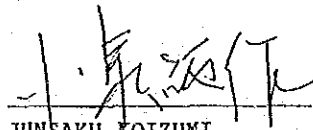
The Mutual Consultation Survey Team (hereinafter referred to as "The Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Junsaku Koizumi, Deputy Director, Social Development Cooperation Department, JICA, visited the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka from April 9th to April 18th 1989 for the purpose of implementation and reviewing the technical cooperation program of the ICT project with the relevant authorities of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.

During their stay in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, the Team exchanged views and had a series of discussions with the relevant Sri Lankan authorities.

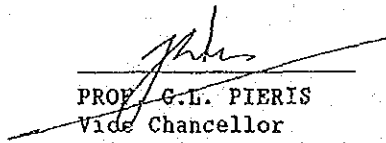
As a result of the discussions, both sides came to an understanding concerning the matters referred to in the document attached herewith.

Finally, the Team expressed their gratitude for arranging a meeting with the Hon. Minister of Higher Education, Science and Technology by the Sri Lankan side. This was especially useful in the light of the importance of the project for the social and economic development of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.

Colombo, April 17th 1989.



JUNSAKU KOIZUMI
Team Leader
Mutual Consultation Survey Team
Japan International Cooperation Agency



PROF. G.L. PIERIS
Vice Chancellor
University of Colombo
Sri Lanka

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Commencement of the Course

The Sri Lankan side stated that the Diploma in Computer Technology (DCT) course could not commence due to the continuous closure of Universities. However, the Sri Lankan side indicated that the reopening of Universities was under consideration and an opening was likely in May or June. The course could then commence. The Sri Lankan side also gave a list of selected students to the Team.

The Team requested the information regarding the reopening be provided as soon as possible.

2. Extension of the Term of Japanese Experts

The Sri Lankan side, referring to the official letter dated March 16th 1989, strongly requested the extension of the duration of the assignment of Japanese Experts in view of the objectives of the establishment of ICT by technical cooperation of the Japanese Government.

The Team promised to convey the said request to the Japanese authorities concerned. The decision in this connection will be made and ICT informed by the end of June 1989.

3. C/P Training in Japan

The Sri Lankan side requested the training of three C/P's in Japan during the fiscal year 1989.

The Team accepted this request.

4. Assignment of C/P

The Team requested the Sri Lankan side to recruit one more C/P as agreed in the R/D Annex IV.

The Sri Lankan side agreed to do so.

5. The Organization

The Sri Lankan side stated that the "Ministry of Higher Education" was reorganized as the "Ministry of Higher Education, Science and Technology".

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Commencement of the Course

The Sri Lankan side stated that the Diploma in Computer Technology (DCT) course could not commence due to the continuous closure of Universities. However, the Sri Lankan side indicated that the reopening of Universities was under consideration and an opening was likely in May or June. The course could then commence. The Sri Lankan side also gave a list of selected students to the Team.

The Team requested the information regarding the reopening be provided as soon as possible.

2. Extension of the Term of Japanese Experts

The Sri Lankan side, referring to the official letter dated March 16th 1989, strongly requested the extension of the duration of the assignment of Japanese Experts in view of the objectives of the establishment of ICT by technical cooperation of the Japanese Government.

The Team promised to convey the said request to the Japanese authorities concerned. The decision in this connection will be made and ICT informed by the end of June 1989.

3. C/P Training in Japan

The Sri Lankan side requested the training of three C/P's in Japan during the fiscal year 1989.

The Team accepted this request.

4. Assignment of C/P

The Team requested the Sri Lankan side to recruit one more C/P as agreed in the R/D Annex IV.

The Sri Lankan side agreed to do so.

5. The Organization

The Sri Lankan side stated that the "Ministry of Higher Education" was reorganized as the "Ministry of Higher Education, Science and Technology".



6. Completion of Building Construction

The Sri Lankan side stated that the major work on the building had been completed and all facilities needed for conducting the DCT course were available.

The Team confirmed what the Sri Lankan side stated, and requested that the necessary action be taken to complete the rest of the work as soon as possible.

7. Budget

The Team made a request for the necessary budget for the smooth operation of ICT. The Sri Lankan side promised to forward the budget for ICT in writing after approval of the Ministry and the University Grants Commission to Mr. Ryo Takagi, the Team Leader of the Japanese Experts.



3. プロジェクトの進捗状況

3-1 訓練コースの開講時期

当初は、1988年7月に開講するというスケジュールで「日」「ス」双方で準備を整えてきたところである。しかしながら、スリ・ランカ全土に及ぶ大学紛争のため大学は閉鎖されたままになっており、幾度かの再開が試みられたが実現に至っていない。

本プロジェクト機関（ICT）は、コロンボ大学構内にあり、また、同大学の附属機関として位置付けられている関係上、ICTの開講時期は、大学の再開時期に連動することになる。

大学の主管庁である高等教育・科学技術省において鋭意、大学の再開に向けて学生代表者との話し合い等、解決策が模索されている。

大学の再開時期についてスリ・ランカ側の関係者は、本年5月、遅くとも6月までには可能であろう旨述べている。また、大学問題の最高責任者である担当大臣は、調査団との会見の席上、本年5月に大学を再開予定である旨明言していた。

このように大学再開に向けて、スリ・ランカ側で熱心な取り組みがなされている。しかし、大学再開は、大学の問題というより、政府・学生間の問題ということもあって、再開の実現をみるまで楽観することはできないが、ICTにおいても本年6月開講に向けて準備が進められている。

（注：調査団帰国後の4月22日、全大学を5月10日までに再開するとの政府声明が発表された）

3-2 訓練生の募集状況

訓練生の募集は、昨年8月から開始され、新聞広告、書類選考、2回の面接及び適性検査を経て、既に30名の訓練生と3名の補欠訓練生が決定されている。

30名の募集に対し233名の応募者（うち47名は書類選考で不合格）があり、競争率は有効応募者数で6倍を超えており、質の高い訓練生が期待できるものと思われる。

なお、訓練生の対象は、R/D上は“A”レベル、または、それと同等の能力を有する者とされているが、ICTでは応募者資格を大卒であることとして、よりハイレベルの者であることを条件としている。最終選考された30名の訓練生の概要は次のとおりである。

（注：訓練生の氏名、所属先等は資料参照）

- (1) 男女別 男性 24名 女性 6名
- (2) 年齢別 24歳以下 2名
 25歳～29歳 16名
 30歳～34歳 4名
 35歳以上 8名
- (3) 受講料の負担（年間1万ルピー：約4万円）
- | | |
|------------|--------|
| 雇用主 | 6名 |
| 自己負担 | 11名 |
| ICTスカラーシップ | 13名（注） |

（注）ICTの正式なスカラーシップとしては10名だけで、残り3名は特別スカラーシップ。

- (4) 職業の有無 有職 20名 無職 10名

3-3 カウンターパート（C/P）への技術移転状況

- (1) カウンターパートの能力評価について、現地の日本人専門家の公正な評価を得たので、その評価結果を表3-3-1に示す。これはカウンターパートの平均値の評価であり、特に前職におけるコンピュータ実務経験の程度の差によって、個人間の能力格差は大きい。しかし、カウンターパートは、いずれも熱意と誠意が感じられ、表3-3-1にあるとおり、現地専門家の評価も、前回の調査団訪問時に比べ、能力は着実に向上してきている。

各サブジェクト毎にメインとサブの2名のカウンターパートが指名されており、万一の離職等の場合にも、対応できるようになっている。

- (2) 次にカウンターパートへの全体の技術移転計画及び実績を表3-3-2に示す。

技術移転は、当初計画より若干遅れ気味ながらも、着実に実施されている。ただ、未だ開講がなされていないことから、一通りの知識を身につけたものの、実際にそれを教える立場での経験をすることは、次の(3)で述べる大学スタッフを対象とする短期セミナーで一部担当した以外には経験していない。中でも経験の乏しいメインフレームを使用した実習指導に不安を持っている。

- (3) 未だコースが開講できない状況にあることから、カウンターパートは専門家から知識を吸収できても、実際にそれを訓練生に指導するという経験を持つ機会がない実情にある。

このような状況の改善に資するため、カウンターパートの教育技法の向上を目的とする模擬講義の実施、並びに教育指導の体験を実際に行う短期セミナーがコロombo大学のスタッフを対象に、次のとおり実施されている。

表 3-3-1 カウンターパートの能力評価

評価項目			評価		注、①向上が見られた事項 ②今後の努力を期待する事項
			88	89	
技術 術 面	1 技術知識	一般的知識	B	B	①・技術知識及び基礎技術の習得 ・講義に対する自信と講義力 ・パソコンの自由活用 ・カリキュラムの開発能力 ②・自分自身での問題提起とその実行能力 ・正確かつ詳細な技術知識 ・周辺の技術の吸収と奥行のある講義 ・大型システム上での自主的計画、開発能力 ・システム仕様書の作成 ・コンパイラ言語の自由使用
		実践的、具体的知識	C	B	
	2 実践能力	小規模プログラミング	B	AB	
		システム設計、開発	C	B	
	3 コース開発、改善能力	カリキュラム開発	B	B	
		教材作成、編集	B	B	
	4 教育能力	講義力	C	A	
		実践(習)能力	C	B	
		語学力(英語)	(B)	(AB)	
	企画 管理 面	1 論理的、具体的目標設定能力		B	
2 総合企画管理能力			B		
3 組織的活動能力			B		
4 計画性		C	B		
5 工程管理能力		C	B		
姿 勢 面	1 自立心、熱意	B	A	①・自立心 ・講座の実施等によるインストラクターとしての自覚 ②・積極性、積極的な改善 ・実行前の事前調査、確認等 ・ドキュメント化と報告、習得技術の拡散	
	2 責任感	B	A		
	3 積極性	B	B		
	4 応用力	C	B		
	5 改善、向上への意欲	B	B		
側面 支援	1 コンピュータ・センター運用企画力		B	①・一般的技術水準 ②・積極的な運用管理、計画姿勢 ・中規模システムの管理(コンピュータの運用、S/Wメンテ等) ・データベースの創成、管理等実際の運用	
	2 ハードウェアメンテナンス技術力		B		
	3 コンピュータシステム運用能力		B		
備考	1 評価値 A:十分な能力を有する B:若干不足(JP-EXの協力が必要) C:不足(JP-EXの主導が必要) 2 一般にC/Pの能力は昨年に比べて、かなり向上している。 3 本表における能力評価は、全C/Pの平均値である(C/Pにおける能力格差は極めて大きい為、各C/Pの個別評価は上記とは全く異なる場合がある)。				

表 3 - 3 - 2 技術移転計画及び実績

← 当初計画
← 予定

全体計画

実績 →

目 標	実績		
	1 年 目	2 年 目	3 年 目
指 導 科 目	1 年 月	2 年 月	3 年 月
1. インストラクター養成 1) 計画、立案	4. 1987	4. 1988	4. 1989
2. 事業実施 ① カリキュラム開発			
② 教材開発			
③ 講義方法			
④ コンピュータ実習			
2. コンピュータ・センター運営 要員養成			
1) システム保守			
2) システム操作			
3) システム管理			

1. 汎用コンピュータ用ソフトウェアの技術者の育成において次のような能力を有するインストラクターを養成する。
1) 計画、立案能力(コンピュータ技術の進展等に対応し、コンピュータ技術教育の方向性を立てられる能力)
2) 事業実施能力(具体的にカリキュラム、教材を開発し、講義、実習等により教育を実施する能力)

2. コンピュータ教育を側面から支える I C T コンピュータ・センター運営技術者を養成する。
1) コンピュータシステム保守能力(導入機器を正常に移動させるためのメインテナンス能力)
2) コンピュータシステム及びセンター運営能力(機器操作、システム構成計画、ファイル管理等センター運営能力)

① 模擬講義

- ・第1回 1988年8月 1日～ 9月13日
- ・第2回 1988年9月26日～10月 7日

② 短期セミナー

- ・コンピュータ入門講座 1988年 8月 9日～ 8月24日
- ・フォトラン短期講座 1988年11月21日～12月 9日
- ・コボル短期講座 1989年 1月23日～ 2月 3日
- ・パソコン短期講座 1989年 3月15日～ 4月10日

3-4 教材整備状況

(1) コースのカリキュラム及び体系は表3-4-1及び図3-4-1のとおり策定され、その教材は、ほぼ完成している。カウンターパートはサブジェクト毎に各2名の教材作成担当者（レクチャーも担当）が指定されている。カウンターパートは、担当の日本人専門家の助言を得ながら教材を作成しており、サブジェクト毎のカウンターパート及び日本人専門家の分担は表3-4-2のとおりになっている。

(2) 既述のとおり、テキストは一通りほぼ完成している。しかし、コースが開講していないこともあり、スリ・ランカ国内のコンピュータ利用の実態を踏まえ、随時、テキストの修正、推敲を重ねている。特に、次のサブジェクトについては、シラバスの編成替えがなされ、現在、教材の中身を統合、再編中である。

- ① オンラインシステムの分析、設計
- ② プログラミング関連

THE CURRICULUM

The Diploma course in Computer Technology is made up of 9 modules of which 8 modules are on course work while the last module is a project.

1. Outline of Information Processing Systems
 - 1.1 Orientation
 - 1.2 Information Processing & Computers
2. Resource of IPS
 - 2.1 Hardware
 - 2.2 Hardware Resources
 - 2.3 Software
 - 2.4 Software Resources
3. Data Structures
 - 3.1 File Structures
 - 3.2 Data Base Systems
4. Information Systems Design
 - 4.1 Information Processing Systems
 - 4.2 Data Communication
 - 4.3 Network Systems
 - 4.4 Online Systems Analysis & Design
5. Program Development
 - 5.1 Program Design and Programming
 - 5.2 Programming Languages
 - 5.2.1 FORTRAN
 - 5.2.2 COBOL
 - 5.2.3 JCL/TSS
6. Management of Computer Systems
 - 6.1 Management of IPS
 - 6.2 Management of Projects
7. Application
 - 7.1 Application Packages (HOST Computer)
 - 7.2 Special Lectures by Specialists
 - 7.3 Assembler-like Languages & System Macros
 - 7.4 Special Topics
8. Personal Computer
 - 8.1 Personal Computer Systems
 - 8.2 Personal Computer Applications
9. Project

表 3-4-2 コース体系

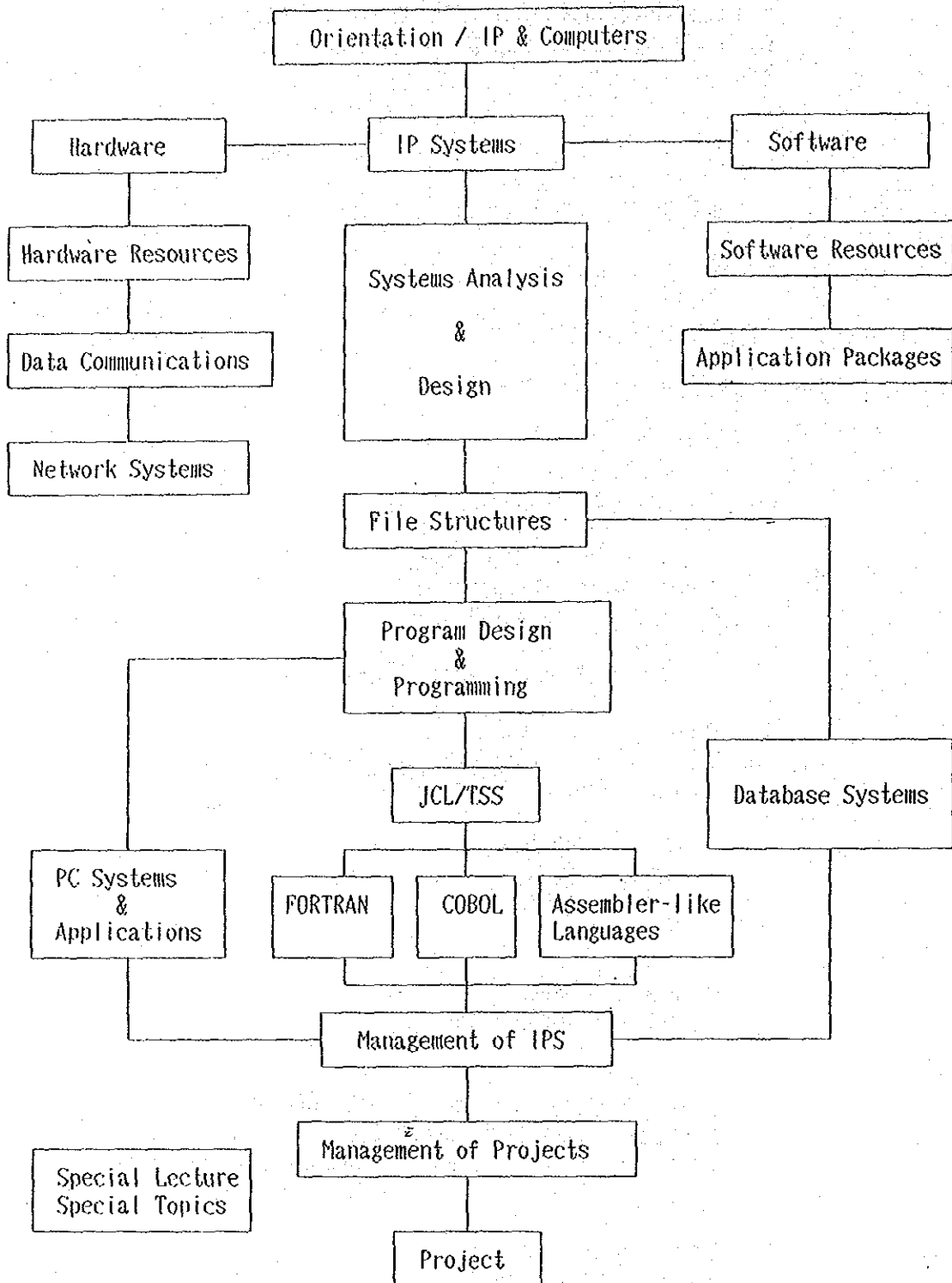


表 3-4-2 サブジェクト別教材、レクチャー担当者と指導担当専門家

カウンターパート	高木	柴田	岩原	新関	長田	高橋	篠田	
Mr. S. T. Nandasara	1.2 6.1	6.2		5.2.3				(システム)
Mr. L. P. Jayasinghe		6.2	4.4					
Mr. S. A. U. Gunasekara		4.1		2.3, 2.4 3.2		7.1		
Mr. A. N. Ranasinghe	6.1			2.4, 7.3 5.2, 3	3.1		5.2.1	
Mr. K. W. Weerawarna			4.4	2.4				
Mr. S. J. Paheerathan		4.1		3.2	3.1			
Mr. A. P. S. R. Somasiri			4.2		5.1		5.1	(システム)
Mr. A. P. Madurapperuma			4.2	7.3			4.3	
Mrs. H. N. A. Jayatilake	1.2				5.2.3			
Miss J. S. Karunanayake				2.3		7.1	5.2.1	
Mr. A. R. Weerasinghe					5.2.2			
Mr. K. S. Goonatilake						2.1 2.2		
Mr. M. J. P. U. Samantilake						2.1 2.2		

注：表中の番号は表 3-4-1 のカリキュラムのサブジェクト番号を示す。

4. 日本側技術協力実績及び今後の計画

4-1 日本側投入実績

4-1-1 専門家派遣

これまでの専門家派遣は1987年度長期専門家8名、短期専門家0、1988年度短期専門家7名となっており、詳細は下記のとおりである。

1987年度実績、長期専門家8名

氏名	指導分野	派遣期間
高木 量	チームリーダー	87. 8. 18～89. 8. 17
柴田司寿男	アシスタントチームリーダー	87. 8. 18～89. 8. 17
田中 和彦	業務調整	87. 8. 18～89. 8. 17
岩原 勝治	コンピュータソフトウェア	87. 8. 20～89. 8. 19
新関 良夫	コンピュータソフトウェア	87. 10. 1～89. 9. 30
長田 賢治	コンピュータソフトウェア	87. 8. 20～89. 8. 19
高橋 真一	コンピュータソフトウェア	87. 10. 1～89. 9. 30
篠田 信幸	コンピュータソフトウェア	87. 8. 20～89. 8. 19

1988年度実績、短期機材据付け7名

佐方 信之	2	88. 05. 09～88. 05. 29	電源工事
		88. 05. 11～88. 05. 27	三和栄電気興業(株)
石川 繁	6	88. 05. 17～88. 05. 29	電源工事
		88. 05. 19～88. 05. 27	日本電気精器エンジニアリング(株)
高林 昇	6	88. 05. 16～88. 08. 15	ハード据付け
		88. 05. 18～88. 08. 13	日本電気フィールドサービス(株)
阿部 秀敬	5	88. 05. 16～88. 08. 15	ハード据付け
		88. 05. 18～88. 08. 13	日本電気フィールドサービス(株)
奥宮 雄志	5	88. 06. 02～88. 08. 02	ソフト据付け
		88. 06. 03～88. 07. 31	日本コンピュータシステム(株)
福嶋 達也	6	88. 06. 02～88. 08. 02	ソフト据付け
		88. 06. 03～88. 07. 31	日本コンピュータシステム(株)
白坂 正春	6	88. 06. 02～88. 07. 02	ソフト据付け
		88. 06. 03～88. 06. 30	N E C

4-1-2 研修員受入れ

1987年度、88年度の研修員受入れ実績は下記のとおり。詳細は表4-1-1に示すとおりである。

1987年度実績

MR.KOORTHI SIRIMOMAN GOONATILLAKE (コンピュータハードウェア)

87年9月末～88年1月末(4カ月)

MR.M.V.P.U.SAMANTHILAKA(コンピュータハードウェア)

87年9月末～88年1月末(4カ月)

MR.A.P.S.R.SOMASIRI (コンピュータソフトウェア)

87年9月末～87年12月末(3カ月)

1988年度実績

MR.KAMAL WASANTHA WEERAWARNA(データベースシステムデザイン)

88年10月～12月(3カ月)

MISS HETTIARAHEIGE NELANTHI ASOKA JAYATILAKE

88年10月～12月(3カ月) (データベースマネジメントシステム)

MISS KARUNANAYAKE PATHIRAJAGE DONA JACINTHA

88年10月～12月(3カ月) (データベースマネジメントシステム)

表4-1-1 カウンターパート受入れ研修計画及び実績

← 当初計画
.....
→ 実績
———
← 予定

経過年次	1 年 目	2 年 目	3 年 目
項目 / 年月	4. 1987	4. 1988	4. 1989 1990 3
1. 計画及び実績			
①ハードウェア保守 9/20 ——— 1/25		
②ハードウェア保守 9/20 ——— 1/25		
③ソフトウェア 9/24 ——— 12/28		
④データベースマネジメント	 9/27 ——— 12/22	
⑤データベースマネジメント	 9/27 ——— 12/22	
⑥データベースマネジメント	 9/27 ——— 12/22	
⑦オンラインマネジメント		 =====
⑧オンラインマネジメント		 =====
⑨オンラインマネジメント		 =====
2. 実績詳細			
①氏名：Mr. K. S. Goonatilake 期間：87.09.20～88.01.25 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：ハードウェア保守	④氏名：Mr. K. W. Weerawarna 期間：88.09.27～88.12.22 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：データベースマネジメント	⑦氏名：Mr. S. A. U. Gunasekera 期間：3カ月 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：オンラインマネジメントシステム	
②氏名：Mr. M. J. P. U. Samantillake 期間：87.09.20～88.01.25 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：ハードウェア保守	⑤氏名：Mrs. H. N. A. Jayatilake 期間：88.09.27～88.12.22 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：データベースマネジメント	⑧氏名：Mr. S. J. Paheerathan 期間：3カ月 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：オンラインマネジメントシステム	
③氏名：Mr. A. P. S. R. Somasiri 期間：87.09.24～88.01.25 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：ソフトウェア	⑥氏名：Miss J. S. Karunayake 期間：88.09.27～88.12.22 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：データベースマネジメント	⑨氏名：Mr. A. N. Ranasinghe 期間：3カ月 研修先：NEC海外研修センター 研修内容：オンラインマネジメントシステム	

4-1-3 機材供与

1987年度、88年度の機材供与実績は下記のとおりである。また、機材価額等詳細は表4-1-2のとおりである。

1987年度、本邦調達分総額 291,547,046円

車輛(パジェロ)9/26 コロンボ到着、11/23 サイト引き取り

パーソナルコンピュータ11/5 " "、11/18 " "

コンピュータ本体

3月2日コロンボ到着予定、3月10日サイト引き取り、5月11日～8月13日据付け

(注)引き取りから据付けまでに2カ月を要したのは、「ス」側によるエアコン及びアクセスフロア工事が遅延したため

視聴覚機材等、現地調達総額、6,303,000円

88年度、本邦調達額(輸送費含まず)64,000,000円

430/30用ソフトウェア

S430及びAPCⅢ用オンライン設備

32ビットパソコン

APCⅣ(XENIX)用ソフトウェア

MS4100スーパーミニコンピュータ用ソフトウェア

メインフレーム ハードウェア

メインフレーム ソフトウェア

端末ハードウェア

端末ソフトウェア

以上、89年3月13日研修検査済み、3月末発送予定

現地調達予定 約2,600,000円

統計パッケージ

OHP用ディスプレイ表示装置

ビデオ教材

国際貿易、金融データ

公衆回線接続機器

PBX接続用オンライン機器

APCⅣ用電圧安定化装置

4-1-4 ローカルコスト負担

1987年度、88年度のローカルコスト負担は下記のとおりである。

1987年度実績

現地業務費臨時支給、700,000円、消耗品費、借料損料

1988年度実績

技術普及広報費、780千円、ICTパンフ作成、パネル作成

現地語教科書作成費、570千円、教科書印刷製本費

現地業務費臨時支給分、556千円

No.	機 材 名	金額 (Rs)	金額 (¥)	数量	活用状況
1	ユニバーサルビデオ プロジェクター	247,382.00	1,036,531	1	時々使用
2	ビデオカセットレコーダー	61,780.00	258,858	2	"
3	オーバーヘッド プロジェクター	98,640.00	413,302	4	一部活用
4	複写機	202,670.00	849,187	1	十分に活用
5	インターコムシステム	320,000.00	1,340,800	1	"
6	オフセットプリンター	224,680.00	941,409	1	時々使用
7	TVモニター	83,543.00	350,045	2	"
8	パソコン用CVCF	267,750.00	1,121,873	6	十分に活用
9	統計パッケージ (SAS、SASグラフ)	100,000.00	381,000	60	今後使用
10	OHP用ディスプレイ装置	69,850.00	266,129	1	"
11	ビデオ教材	186,425.83	753,409	5	"
12	国際貿易、金融データテープ	74,791.90	280,800	3	十分に活用
13	公衆回線接続機器	60,000.00	228,600	4	今後使用
14	PBX接続用オンライン機器	81,335.00	309,887	5	"
15	APC W用電圧安定化装置	99,800.00	380,238	4	"

4-2 日本側投入計画

4-2-1 専門家派遣

長期専門家任期については、本報告書2-2のとおりである。

短期専門家については、下記の5名が計画されている。

	人数	期間
1. 据付け調整		
1) ハードウェア据付け	1	2週間(89.05.05～89.05.19)
2) ソフトウェア導入	2	各1カ月(89.05.10～89.06.10)
2. 特別講義		
1) 高度情報処理技術 (AI、C&C、第5世代コンピュータ等)	1	2週間
2) 高度アプリケーションシステム (DB産業、金融システム等)	1	2週間

4-2-2 研修員受入れ

1989年度、下記の3名の受入れが計画されている。

- ① Mr. Sebamalai Jeronious Pahcerathan (オンラインシステム設計)
 - ② Mr. Samara Archchige Upananda Gunasekara (オンラインシステム設計)
 - ③ Mr. Arjuna Nishantha Ranasinghe (オンラインシステム設計)
- } 89年7月～9月

4-2-3 機材供与

1989年度機材供与計画は、2,500万円程度でオフコン一式を供与する予定である。調達方法は基本的には現地調達とし、コスト、アフターケア等を検討のうえ、5月上旬には結論を出すこととした。オフコンを必要とする理由は次のとおりである。

ICTプロジェクトにはオンラインシステム等高度利用技術を有する開発要員の育成に必要なホストコンピュータシステム(S430及び周辺システム)が供与され開講準備中であるが、スリ・ランカにおいては中小規模企業等のOA化に対し手軽に扱えるオフィスコンピュータレベルの需要も高い。したがって、受講生に対しオフコンレベルのアプリケーションパッケージ(会計事務、文書管理、各種台帳管理等)に関する認識と利用経験を与えておくことは極めて有益と考えられる。

4-2-4 ローカルコスト負担

1989年度のローカルコスト負担は、現地語教科書作成費1,000千円を予定している。

5. プロジェクト実施体制

5-1 組織

- (1) INSTITUTE OF COMPUTER TECHNOLOGY (ICT)は、大学法 (THE UNIVERSITY ACT) に基づき、1987年9月1日付の大統領令により設立され、コロンボ大学副学長直属の高等教育機関と位置付けられている。
- (2) ICTの位置付け及び関連する組織は図5-1-1のとおりであり、1988年12月のスリ・ランカ側案と比較して、高等教育省 (MINISTRY OF HIGHER EDUCATION) が組織改正により高等教育・科学技術省 (MINISTRY OF HIGHER EDUCATION, SCIENCE AND TECHNOLOGY) となったほかは変更はない。なお、当該変更はICT運営に特段の影響を与えないとのことである。

5-2 要員・C/P配置状況

- (1) C/P、職員の配置状況は次のとおりであり、C/P各人の一覧表は表5-2-1に示すとおりである。

①所長	1名
②データプロセッシングマネージャー	1名
③インストラクター	11名
④メインテナンスエンジニア	2名
⑤システムオペレーター	2名
⑥職員	6名

* 1989年3月31日現在 合計23名

- (2) 要員の数については特に問題はない。また、C/Pの能力については、メインフレームでの開発、利用に関し経験が望まれるものの、全体としては着実に向上しており、特に現時点で増員等を考える必要はない。
- (3) C/Pに1名の空席があるが、これについては、時間がかかっても優秀な人材を採用することに努力すべき、との方針のもとに慎重を期しているものであり、新聞広告を利用した募集が試みられている。なお1名の欠員による不都合は、現在のところ特に起こっていない。

ORGANIZATIONAL CHART OF
THE INSTITUTE OF COMPUTER TECHNOLOGY PROJECT

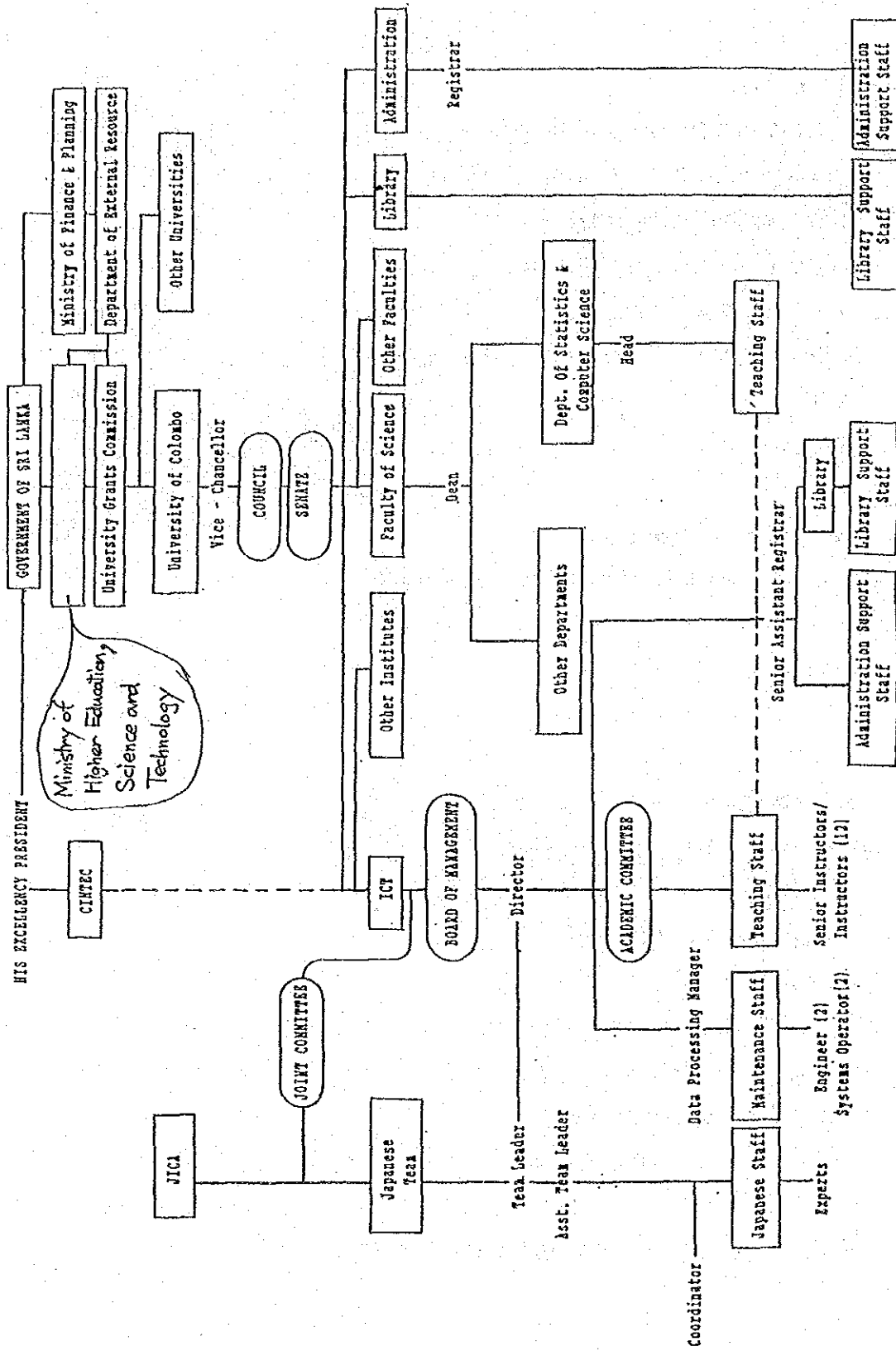


表 5-2-1 カウンターパート配置状況

平成元年3月31日現在

No.	氏名	年齢	生年月日	担当分野	現職/配属年月日	職歴	最終学歴
1	Prof. V. K. Samaranyake	49	1939.05.22	プロジェクトマネジメント	Director / 87.08.20	コロンボ大学教授、CINTEC議長	Vidyodaya 大学大学院
2	Mr. U. L. Silva	39	1950.02.14	データ処理システム管理	D. P. M. / 88.07.15	情報システムマネージャー	ケラニア大学
(Teaching Staff)							
3	Mr. S. T. Nandasara	37	1952.03.12	プロジェクトマネジメント	Instructor / 87.08.20	コロンボ大学アシスタントレクチャラー	コロンボ大学
4	Mr. L. P. Jayasinghe	29	1959.08.04	システム設計、 プロジェクトマネージメント	Instructor / 87.08.03	コロンボ大学プログラマー	コロンボ大学
5	Mr. S. A. U. Gunasekera	29	1960.03.29	I P S、ソフトウェア データベース	Instructor / 87.08.20	コロンボ大学インストラクター	コロンボ大学
6	Mr. A. N. Ranasinghe	25	1963.04.24	ファイル、ソフトウェアリソース、 J C L	Instructor / 87.08.20	コロンボ大学インストラクター	コロンボ大学
7	Mr. K. W. Weerawarna	29	1960.02.09	ソフトウェアリソース、 システム設計	Instructor / 87.08.20	システムアナリスト	ケラニア大学
8	Mr. S. J. Paheerathan	28	1961.01.10	データベース、I P S、ファイル	Instructor / 87.08.20	システムアナリスト	ハチイカロア大学
9	Mr. A. P. S. Somasiri	27	1961.09.22	システム設計、データ通関	Instructor / 87.08.20	コロンボ大学インストラクター	コロンボ大学
10	Mr. A. P. Madurapperuma	27	1961.09.30	データコミュニケーション、 H P L、ネットワーク	Instructor / 88.02.01	-	ハバナ大学(キューバ)
11	Mrs. H. N. A. Jayatilake	27	1961.08.13	COBOL、プログラミング、 情報処理とコンピュータ	Instructor / 87.08.20	コロンボ大学インストラクター	コロンボ大学
12	Miss. J. S. Karunanayake	30	1958.11.24	FORTRAN、ソフトウェア	Instructor / 87.08.24	会社員	コロンボ大学
13	Mr. A. Ruwan Weerasinghe	28	1960.06.09	プログラミング	Instructor / 88.05.01	オープン大学インストラクター	コロンボ大学
(Maintenance Staff)							
14	Mr. Keerthi S. Goonatilake	30	1958.09.26	システム保守、ハードウェア	Engineer / 87.07.01	コンピュータ技術者	コロンボ大学
15	Mr. M. J. P. U. Samantilake	31	1957.09.17	システム保守、ハードウェア	Engineer / 87.08.15	コンピュータ技術者	モロトフ大学
16	Mr. P. A. D. Sunil	26	1962.12.31	システム運用	Operator / 88.08.22	-	コロンボ大学
17	Mr. R. A. Harrison	32	1957.02.25	システム運用	Operator / 88.09.01	データプロセッシングオフィサー	ケラニア大学

カウンタパーパート配属状況（職員）

No.	氏名	年齢	生年月日	担当分野	現職/配属年月日	職歴	最終学歴
1	Miss. P. Vidyakanthi				Stenographer / 87.08.20		
2	Mrs. G. D. L. P. Gunaratne				Clerk / 88.04.01		
3	Miss. M. P. Paliawadana				Library Assistance / 89.01.01		
4	Mr. W. Fonseka				Lab. Attendant / 88.04.01		
5	Mr. A. D. Henry				Lab. Attendant / 88.08.01		
6	Mr. H. A. D. A. Pathirana				Driver / 87.11.01		

5-3 予 算

- (1) ICT予算は表5-3-1に示すとおりである。89年度分は現在要求中であるが、コース開講を円滑に行い得るよう、建物工事費の減少分、経常経費を増やす方向で交渉がなされている。なお、要求額には特に不都合な点はみられない。
- (2) 89年度の供与機材要望額については次のとおりであり、長期専門家グループは全て現地調達を希望している。

機 材	見積価格(千円)
①オフィスコンピュータ用ハードウェア	20,000
②オフィスコンピュータ用ソフトウェア	8,000
③オフィスコンピュータ用スペアパーツ	3,000
④オフィスコンピュータ設置費	1,000
⑤オフィスコンピュータ電源設備	1,500
⑥オフィスコンピュータ消耗品	1,000

- (3) スリランカのコンピュータ普及状況をみると、大きな組織でも大型コンピュータの導入事例は多くないが、オフィスコンピュータはある程度普及している。また、パーソナルコンピュータ専門学校の数も少なからずあり、かなり高額な授業料にもかかわらず受講生が集まっていることなどをみても、オフィスコンピュータの教育ニーズはあると考えられる。
- (4) 現地調達については、一部メーカーの場合可能であるとのことであったが、現行R/Dにおける協力終了予定日(90年3月31日)までに機器導入及びカリキュラム作成を行うとした場合、納期の確実さ、アフターケア等を含め本邦調達と現地調達の総合的な優劣は不明である。

表 5 - 3 - 1 ICT 予算

1) 開発予算 (単位：百万ルピー)

項目 / 年度	86	87	88	合計
建物工事費	10	22	6	38
特別設備費	-	3	3	6
備品費	1	1	2	4
合計	11	26	11	48

2) 経常予算 (単位：ルピー)

項目 / 年度	87	88	89
人件費	114,000	860,000	1,490,000
旅費	-	-	50,000
物品費	105,000	130,000	200,000
維持修理費	14,000	10,000	75,000
運搬、通信、光熱水料等	118,000	160,000	415,000
福利厚生費	-	50,000	250,000
補助金等	403,000	90,000	20,000
コンピュータ維持修理費	-	-	500,000
研究設備費	-	550,000	-
合計	754,000	1,850,000	3,000,000

* 87年度は8月から、また89年度分は要求額。

* 通貨換算率：1ルピー = 5.000円(87年 8月)

1ルピー = 4.426円(87年 11月)

1ルピー = 3.704円(88年 11月)

1ルピー = 3.835円(89年 3月)

5-4 機材の維持管理状況

- (1) 供与機材の一覧は表5-4-1に示すとおりであり、表5-4-2に示す携行機材と併せて活用されている。
- (2) 供与機材に関する維持管理状況は概ね良好であり、メインフレームは、昨年の運転開始以来、大きなトラブルもなく順調に稼働している。
- (3) 予備パッケージを含め、簡単な修理部品はかなりのストックがあり、予想され得る故障については、既に訓練を受けたC/P限りで修理が可能な体制となっている。
- (4) 供与機材であるコンピュータシステムに対するメーカーの保証期間は89年9月上旬までであり、以降はスリ・ランカ側の負担による維持管理となる。当初スリ・ランカ側の維持管理費用の不足が懸念されたが、現在ICT側では「コンピュータ維持修理費」として50万ルピー（約200万円）を財務当局に要求中であり、この点についてはスリ・ランカ側の前向きな努力が認められる。
- (5) 現地調達品目の購入状況は表5-4-3に示すとおりであり、利用状況は活発ではないが、コースが開講していない現状では、やむを得ないものと考えられる。

表 5 - 4 - 2 携行機材一覧

No	船荷空荷 証券番号	金額(円)	到着月日 引取月日	主要機材名	数量	活用状況
1	217-36402623	1,997,230	87.10.09	電卓 BL-546	6	十分に活用
			10.20	日本語ワープロ	1	"
				プログラム用紙	200	"
				テンプレート	50	"
				書籍(和文)	269	"
2	217-36403485	105,781	10.23	書籍(和文)	29	"
			11.05			
3	217-37122212	413,262	11.22	書籍(和文)	10	"
			11.27	(英文)	44	"
4	603-13322750	306,075	88.01.25	書籍(英文)	34	"
			02.17			
5	TG-308 HAND CARRIED	7,410	03.27	書籍(英文)	2	"
			03.28			
6	603-13353896	256,760	06.02	キングファイル	100	"
			06.17	プロテック用紙	100	"
7	603-13354342	4,027,220	07.19	ソフトウェア(XENIX)	12	"
			07.27			

表5-4-3 現地調達機材一覧

No	機 材 名	金額 (Rs)	金額 (円)	数量	活用状況
1	ユニバーサルビデオ プロジェクター	247,382.00	1,036,531	1	時々使用
2	ビデオカセットレコーダー	61,780.00	258,858	2	"
3	オーバーヘッド プロジェクター	98,640.00	413,302	4	一部活用
4	複写機	202,670.00	849,187	1	十分に活用
5	インターコムシステム	320,000.00	1,340,800	1	"
6	オフセットプリンター	224,680.00	941,409	1	時々使用
7	TVモニター	83,543.00	350,045	2	"
8	パソコン用CVCF	267,750.00	1,121,873	6	十分に活用
9	統計パッケージ (SAS、SASグラフ)	100,000.00	381,000	60	今後使用
10	OHP用ディスプレイ装置	69,850.00	266,129	1	"
11	ビデオ教材	186,425.83	753,409	5	"
12	国際貿易、金融データテープ	74,791.90	280,800	3	十分に活用
13	公衆回線接続機器	60,000.00	228,600	4	今後使用
14	PBX接続用オンライン機器	81,335.00	309,887	5	"
15	APCN用電圧安定化装置	99,800.00	380,238	4	"

5-5 建物・施設工事竣工状況

- (1) 建物(STATISTICS AND COMPUTER SCIENCE BUILDING COMPLEX)は理学部のコンピュータ関係学科と同居している。全体の建物設備工事進捗状況は図5-5-1に示すとおりであり、当初計画からは大幅に遅れたものの、全体としては、講義及びコンピュータの維持管理に対して特に問題がない程度には完成している。
- (2) ICT部分及び共通部分については、玄関部分及び別棟の講堂が内装工事が特に遅れており、本体建物内部も窓の熱線反射フィルターの設置等一部内装工事にも未了の部分が存在する。
- (3) コンピュータ関連では、無停電電源装置に対する発電機の接続を除いては完成している。発電機は本体建物に隣接する小さな別棟内に既に設置されているが、予定されている無停電電源装置との接続及び機能確認試験がスリ・ランカ側エンジニアの日程確保ができないため未了となっている。最大負荷で10分間のバッテリーバックアップ能力を持つ本無停電電源装置は、発電機のバックアップがなくとも、ある程度の電源供給異常に対して対応可能であり、現在のところ円滑に機能している。しかし停電はかなり頻繁に起こっており、また充電にはかなりの時間がかかることから、正式なカリキュラムのもとでセンターが本格稼働を迎える前に接続が完了していることが望ましい。
- (4) なお、機器の接続図は図5-5-2に示すとおりであり、図中左下部分のEngine GeneratorからUSP(CVCF)への接続が未了部分である。

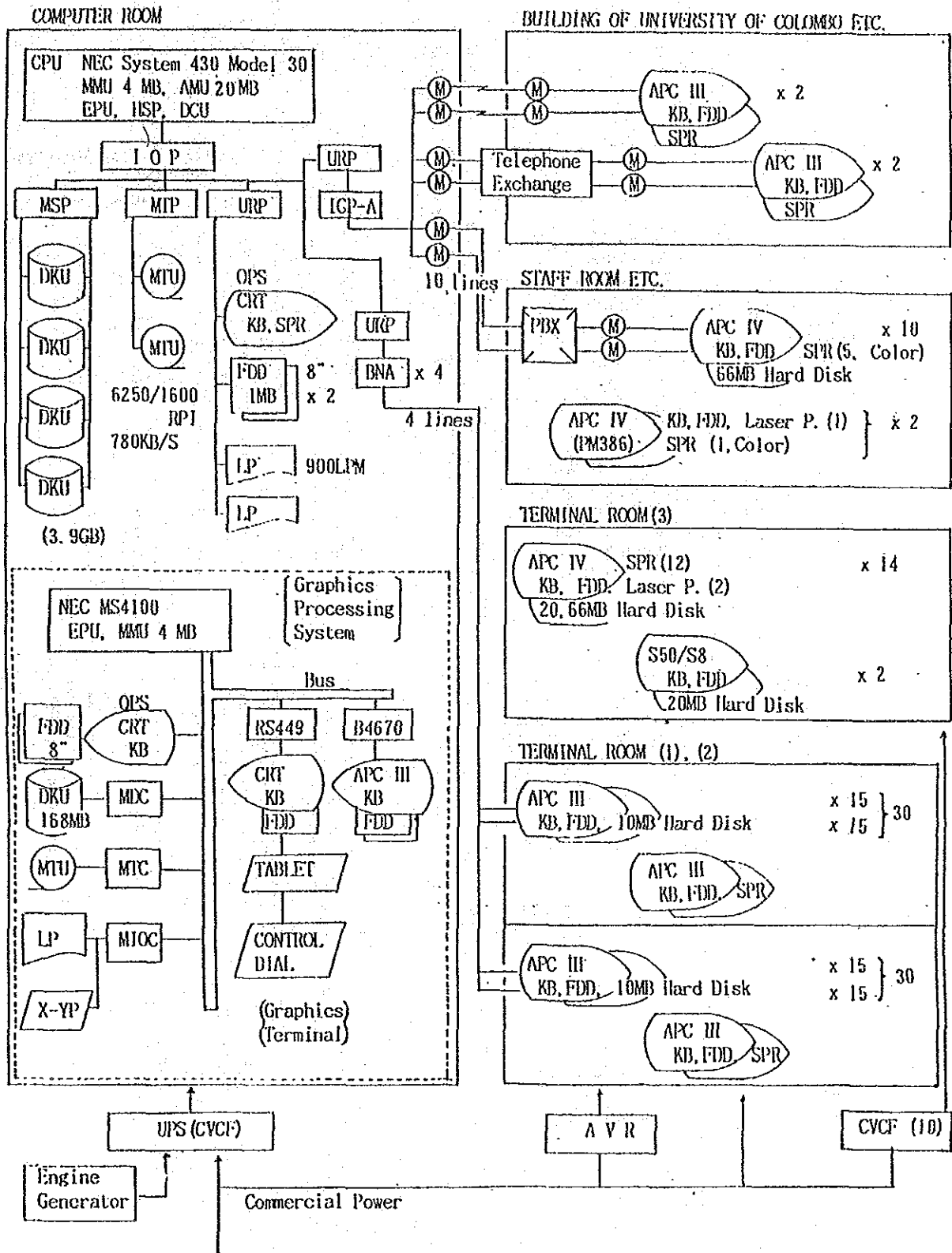
図 5-5-1 建物設備工事進捗状況

..... ← 当初計画
 実績 → —— ← 予定

項目 / 経過年次	1 年 目 4.1987	1 年 目 1988	2 年 目 4.1988	2 年 目 1989	3 年 目 4.1989	3 年 目 1990
1. 建物工事						
① 全体						
② Gフロア						
③ 1stフロア						
④ 2ndフロア						
⑤ 3rdフロア						
2. 設備工事						
① 電源						
② メインA/C						
③ バックアップA/C						
④ アクセスフロア						
⑤ エレベータ						
⑥ 消火設備						
⑦ エンジンジェネレータ						
						コンピュータ用電源装置 (UPS)との結合及び連 動試験は4月以降

図 5 - 5 - 2 機器接続図

(COMPUTER SYSTEM CONFIGURATION FOR I. C. T.)



6. 資料 (訓練生の氏名、所属先等)

DIPLOMA IN COMPUTER TECHNOLOGY Information on Selected Applicants

No.	Reference No.	Name with Initials	Sponsored	Schol.	Will Leave Pay Avail.	Employed	
1	ICT/88/1/003	Miss Ignatius A.M.	-	-	Y	Y	N
2	ICT/88/1/009	Mr. Joseph H.	-	-	Y	Y	N
3	ICT/88/1/018	Miss Heepagala B.N.M.	-	Y	-	Y	N
4	ICT/88/1/023	Mr. Arumapperuma Arachchi T.G.	-	-	Y	Y	N
5	ICT/88/1/046	Mr. Divakaran S.	-	Y	-	Y	N
6	ICT/88/1/047	Mr. Senaratne W.R.A. De Z	-	Y	-	Y	Y
7	ICT/88/1/048	Mr. Nanthakumar P.	-	-	Y	Y	Y
8	ICT/88/1/067	Mr. Gunasekara W.A.S.	-	Y	-	Y	Y
9	ICT/88/1/068	Mr. De. Silva P.H.L.V.	Y	-	-	Y	Y
10	ICT/88/1/084	Mr. Nimalsiri Rajapaksa P.	-	-	Y	Y	Y
11	ICT/88/1/091	Mr. Pathmaperuma O.A.W.P.	-	-	Y	Y	Y
12	ICT/88/1/093	Mr. Wijayawardhana C.J.	-	Y	-	R	Y
13	ICT/88/1/117	Mr. Premaratne H.L.	-	-	Y	Y	N
14	ICT/88/1/118	Miss Sathiamoorthy G.	-	Y	-	Y	N
15	ICT/88/1/126	Mr. Tilakaratne S.	Y	-	-	Y	Y
16	ICT/88/1/127	Mr. Peiris S.L.C.	-	-	Y	R	Y
17	ICT/88/1/129	Mr. Abthul Haleem M.I.	-	Y	-	Y	N
18	ICT/88/1/131	Mr. Premachandra K.G.G.	-	-	Y	Y	Y
19	ICT/88/1/142	Mr. Gnanasambanthan S.J.	-	Y	-	Y	N
20	ICT/88/1/146	Mr. Kandiah K.	-	Y	-	Y	Y
21	ICT/88/1/153	Mr. Caldera H.A.	-	Y	-	Y	Y
22	ICT/88/1/157	Mr. Gunawardana N.	Y	-	-	Y	Y
23	ICT/88/1/158	Mr. Sarath Anura H.H.	Y	-	-	Y	Y
24	ICT/88/1/160	Mr. Gunaratne M.K.De S.	-	-	Y	R	Y
25	ICT/88/1/166	Miss Heerigama I.	-	Y	-	Y	N
26	ICT/88/1/172	Mr. Kumarapathirana K.B.	Y	-	-	Y	Y
27	ICT/88/1/189	Mr. Jayawickrema P.S.	-	-	Y	Y	Y
28	ICT/88/1/190	Mrs. De Silva P.H.A.	-	Y	-	Y	Y
29	ICT/88/1/201	Mr. Satharasinghe D.V.K.	-	Y	-	R	Y
30	ICT/88/1/218	Miss Dharmaretnam P.	Y	-	-	Y	Y

Leave Availability : Y - Leave Available
R - Will resign if leave not available

Reserve :

1	ICT/88/1/061	Mr. Wickramasinghe S.A.K.	-	-	Y	Y	N
2	ICT/88/1/154	Mr. Weliwita D.D.	-	-	Y	Y	N
3	ICT/88/1/225	Mr. Wickramarachchi R.L.	-	-	Y	Y	N

Selected Applicants Information
Diploma in Computer Technology
General Information

<u>No. D/B No.</u>	<u>Name with Initials</u>	<u>Designation</u>	<u>Work Address</u>	<u>Age</u>
1	ICT/88/1/117 Mr. Premaratne H.L.	Visiting Instructor	Dept. of Physics, University of Moratuwa, Moratuwa.	37
2	ICT/88/1/068 Mr. De. Silva P.H.L.V.	Branch Superintendent (Computer Brn.)	Dept. of Government Printing, Colombo 8.	28
3	ICT/88/1/047 Mr. Senaratne W.R.A. De Z	Technical Officer (Electronics)	TK Maintenance, Sri Lanka Rupavahini Corporation, P.O.Box 2204 Independen.Sgr. Colombo 7	31
4	ICT/88/1/127 Mr. Peiris S.L.C.	Electrical Engineer (Communications)	Communication Branch, Ceylon Electricity Board, Kent Road - Dematzgoda.	26
5	ICT/88/1/093 Mr. Vijayawardhana C.J.	Temporary Demonstrator	Electrical & Computer Laboratories, Open University of Sri Lanka, Nawala - Nugegoda.	30
6	ICT/88/1/146 Mr. Kandiah K.			25
7	ICT/88/1/009 Mr. Joseph K.	Imports Executive	Cargills (Ceylon) Limited, No. 40 York Street, Colombo 1	25
8	ICT/88/1/189 Mr. Jayawickrema P.S.	Deputy Chief Manager	Credit Supervision Department, People's Bank Head Office, Colombo 2	29
9	ICT/88/1/172 Mr. Kumarapathirana K.B.	Temporary Assistant Lecturer	Department of Mathematics, University of Colombo, Colombo 03.	41
10	ICT/88/1/153 Mr. Caldera H.A.	Progress Monitoring Officer	RPM's Office, MRH of the MSL, System "G" - Walikanda.	28
11	ICT/88/1/084 Mr. Nimalisiri Rajapaksa P.			35
12	ICT/88/1/129 Mr. Abthul Haleem M.I.	Programmer/System Analyst	Computer Division, Dept. of Examinations, Colombo 2	26
13	ICT/88/1/190 Mrs. De Silva P.H.A.	Asst. Supdt. of Surveys	Divisional Survey Office, Ratnapura.	40
14	ICT/88/1/157 Mr. Gunawardana N.	Sole Proprietor	A. Pathmaperuma & Co., Chartered Accountants, 9 Sri Saranankara Road - Dehiwela.	35
15	ICT/88/1/091 Mr. Pathmaperuma O.A.W.P.			45
16	ICT/88/1/158 Mr. Sarath Anura E.H.	Indust Eggg. Asst./Analyst Programmer	Sri Lanka Tyre Corporation, P.O.Box 08, Kelaniya.	29
17	ICT/88/1/023 Mr. Arunapperuma Arachch T.G.	Temp. Demonstrator (Physics)	Physics Department, Sri Jayawardanapura University, Nugegoda	26
18	ICT/88/1/067 Mr. Gunasekara W.A.S.	Electronic Advisor & Analyzer	The Blue Moon Electricals, No. 3 Awissavella Road, Hanwella.	39
19	ICT/88/1/046 Mr. Divakaran S.			24
20	ICT/88/1/131 Mr. Premachandra K.G.G.	Accountant	Police Field Force, Headquarters, P.O.Box 571 - Colombo 5.	31
21	ICT/88/1/160 Mr. Gunaratne M.K.De S.	Assistant Manager	S.L. State Tracing(Tractor) Corp., 343 Olcott Mawatha, Colombo 11.	29
22	ICT/88/1/003 Miss Ignatius A.M.			27
23	ICT/88/1/201 Mr. Satharasinghe D.V.K.			27
24	ICT/88/1/118 Miss Sathiamoorthy G.			24
25	ICT/88/1/048 Mr. Manthakumar P.	Audit Trainee	Sachithananda Soekman/Pasupathi Co, 3rd Floor - Cargills Bldg., Colombo 1	31
26	ICT/88/1/126 Mr. Tilakaratne S.	Supervisor-in-Charge (Computer)	Computer Section, Motor Traffic Department, Marabempita.	37
27	ICT/88/1/166 Miss Meerigama I.			28
28	ICT/88/1/018 Miss Keepagala B.W.M.	Executive Manager (Accounts)	Agricultural & Industrial, Chemicals (Pvt) Ltd, 35 New Road - Batticaloa	26
29	ICT/88/1/218 Miss Dharmaretnam P.			28
30	ICT/88/1/142 Mr. Gnanasambanthan S.J.			26

Selected Applicants Information
 Diploma in Computer Technology
 University Education

No. D/B No.	Name with Initials	University	Degree Class	Degree Year	Subjects
1	ICT/88/1/117 Mr. Premaratne H.L.	Peradeniya	B.Sc.(General)	Pass	1976 Pure Maths, Physics, Chemistry,
2	ICT/88/1/068 Mr. De. Silva P.H.L.V.	Kelaniya	B.Sc.(General)	Pass	1984 Chemistry, Botany, Zoology,
3	ICT/88/1/047 Mr. Senarathne W.R.A. De Z	Peradeniya	B.Sc.(General)	Pass	1983 Pure Maths, App. Maths., Physics.
4	ICT/88/1/127 Mr. Peiris S.L.C.	Moratuwa	B.Sc.Eng.	II-2	1987 Electronics, Telecom., Maths., Control Systems
5	ICT/88/1/093 Mr. Wijayawardhana C.J.	Moratuwa	B.Sc.Eng.	Pass	1985 Elect.Eng.Sub.,
6	ICT/88/1/146 Mr. Kandiah K.	Indian Institute of Technology Jaffna	B.Tech.(Civil Eng.)	1988	
7	ICT/88/1/009 Mr. Joseph H.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1988 Statistics, Pure Maths., Chemistry,
8	ICT/88/1/189 Mr. Jayawickrema P.S.	Kelaniya	B.Com.(Special)	Pass	0 Manage.Account., Financiz. Acct., Personnel Mang., Auditing
9	ICT/88/1/172 Mr. Kumarapathirana K.B.	Kelaniya	B.Econ.(Honours)	I	1972
10	ICT/88/1/153 Mr. Caldera H.A.	Colombo	B.Sc.(Special)	II-2	1987 Pure Maths '82, App. Maths '84, Physics, Pure Maths '84
11	ICT/88/1/084 Mr. Minalisiri Rajapaksa P.	Peradeniya	B.A.(Special)	Pass	1977 App. Economics, Comp.Econ.Div., Statistics, Econ.
12	ICT/88/1/129 Mr. Abthul Haleem M.I.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1988 Pure Maths., App. Maths., Chemistry,
13	ICT/88/1/190 Mrs. De Silva P.H.A.	Peradeniya (Old Syllabus)/External	B.A.(General)	Pass	1978 Pure Maths, Appl. Maths, Economics,
14	ICT/88/1/157 Mr. Gunawardana N.	Colombo	B.Sc.(General)	Pass	0 Pure Maths, App. Maths, Statistics,
15	ICT/88/1/091 Mr. Pathmaperuma O.A.V.P.	Vidvodaya	B.A., B.Com.	Pass	0 Prin. Economics, App. Economics, Money & Banking, Statistic
16	ICT/88/1/158 Mr. Sarath Anura H.E.	Kelaniya	B.Sc.(General)	Pass	1983 Mathematics, Indus. Mang., Chemistry,
17	ICT/88/1/023 Mr. Arumapperuma Arachch T.G. Sri Jayewardeneperuma	Colombo	B.Sc.(General)	Pass	1986 Maths(Incl.CS), Physics, Biology,
18	ICT/88/1/087 Mr. Gunasekara W.A.S.	Colombo	B.Sc.(Pub. Fin. Spc)	Pass	1975 Accountancy, Commercial Know, Commercial Law, Economics
19	ICT/88/1/046 Mr. Divakaran S.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1988 Pure Maths, Applied Maths, Physics,
20	ICT/88/1/131 Mr. Premachandra K.G.G.	Kelaniya	B.Com.(Special)	Pass	1982 Accountancy, Auditing, Statistics, Quan.Techniques
21	ICT/88/1/160 Mrs. Gunaratne M.K.De S.	Colombo	B.Sc.(General)	Pass	1985 Physics, Pure Maths, Applied Maths.
22	ICT/88/1/003 Miss. Ignatius A.M.	Kanraj	B.Sc.(Mathematics)	II-1	1985 Mathematics, Physics, French, English.
23	ICT/88/1/201 Mr. Satharasinghe D.V.K.	Colombo	B.Sc.(General)	II-2	1987 Pure Maths, Applied Maths, Chemistry,
24	ICT/88/1/118 Miss Sathamoorthy G.	Madras (India)	B.Sc.(Mathematics)	I	1988 Mathematics, Numerical Anly., Computer Prgramng, Physics
25	ICT/88/1/048 Mr. Manthakumar P.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1986 Pure Maths, Appl. Maths, Physics,
26	ICT/88/1/126 Mr. Tilakaratne S.	Peradeniya	B.A.(Econ. Spc.)	Pass	0 Statistics, Economics, Accounting,
27	ICT/88/1/166 Miss Meerigama I.	Peradeniya	B.Sc.(Agri. Spc.)	Pass	1985
28	ICT/88/1/018 Miss Keepagala B.N.M.	Ruhuna	B.Sc.(Agri. Spc.)	II-2	0 Crop Production, Animal Science, Agri. Economics, Agri. Technolo.
29	ICT/88/1/218 Miss Dharmaretnam P.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1985 Pure Maths, Applied Maths, Statistics,
30	ICT/88/1/142 Mr. Gnanasambanthan S.J.	Jaffna	B.Sc.(General)	Pass	1988 Applied Maths, Physics, Chemistry,

JICA